校庭は気候危機時代にどうあるべきか

- 140年変わらない空間から気候適応教育拠点への転換に向けて

寺田光成・日本体育大学 子どものからだ研究所 助教

Ermilova Mariia · 日本体育大学 一般研究員

野井真吾・日本体育大学 子どものからだ研究所 所長

はじめに

「ピーピーピー

「WBGT計の音が聞こえたと思います が、中休みの外遊びは中止です。」

「えー」

東京都内の小学校では、7月から9月 にかけて、こうした校内放送が連日流れ、 子どもたちのガッカリとした声が校舎に 響き渡ります。こうした制限対象は、休 み時間に限らず、体育の授業も同様です。

気象庁データによると、観測開始から 約140年に亘って気温は上昇し続け、今 後も上昇することが予想されています。 年平均気温は約1.3℃上昇し、都市部で はヒートアイランド現象によりさらに深 刻化しています。

本稿では、気候危機時代における校 庭のあり方を、学校現場での実感、規制・ 対応策の実態、国内外の校庭づくりのあ り方を踏まえながら検討し、子どものか らだと心の健やかな成長を支える校庭環 境の方向性を提示したいと思います。

校庭利用制限の実態と現場の声

(1) 暑さ指数と熱中症リスク

2024年夏の東京都暑さ指数 (WBGT) は、7月の昼休み時間帯において「厳重 警戒」以上(WBGT 28以上)の日が 93.5%、「運動は原則中止」レベル (WBGT 31以上)の日が54.8%を占めました。一方、 9月では「厳重警戒 | 以上が53.3%、「運 動は原則中止」レベルも全体の4分の1 (26.7%) を占めており、9月も依然とし て高い危険性が続いていました。世田谷 区の養護教諭8名に協力をいただいた実 測記録データでも同様の傾向が確認さ れ、危険な状況が裏付けられています。

一部の学校では運動会を5月に前倒 しで実施するなど、暑熱順化を意識した 外遊びを許容する動きも見られます。し かしながら、現場からは「教育的判断で 許容することは、もうできなくなるだろ う…」という深刻な声が聞かれます。

この背景には、現代の「リスク社会」 特有の構造があります。何か事故が起 きれば責任問題が過度に追及される社 会において、学校現場では「ゼロリスク」 を求められる状況に置かれています。も ちろん子どもの命を守ることが最優先で あることは言うまでもありませんが、気 温上昇が続く中、明確な環境整備や方 針が示されないまま現場判断に委ねられ れば、今後ますます熱中症リスクを避け るため外に出さない判断が常態化する恐 れがあります。子どもの育ちへの配慮が 忘れ去られ、安全管理ばかりが強調さ れる状況が拡大していくことが予想され ます。

(2) 東京都の小学校への調査結果

では、こうした暑さによる校庭利用制 限はどのような実態にあるのか。2024年 11月に東京都内公立小学校1,258校を対 象としたアンケート調査(回答数434校/ 有効回答率34.5%)を実施しました。以 下、得られた結果の概要を示します(図 1)。

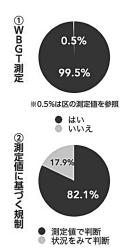
①WBGT測定は「はい」99.5%とほ ぼ全校で実施されており、②規制判断 は「測定値で判断」82.1%が主流で、一 部には「状況をみて判断 | 17.9%も残り、 測定値と現場裁量による判断が併存し ています。

③熱中症対策は「水分を取るよう促 す」97.9%、「帽子を被る」94.4%、「学校

■ 否定(1.あまりそう思わない+2.そう思わない) ■ 肯定(3.まあそう思う+4.そう思う)

77.9%

100%



3	(複数選択)	n	%
熱	水分を取るよう促す	423	97.9%
③熱中症対策	帽子を被るよう呼びかける	408	94.4%
装	学校放送で呼びかける	393	91.0%
策	教員が一緒に遊ぶ	260	60.2%
	ミストを設置	224	51.9%
	熱中症グッズ装着を促す	158	36.6%
	水をまく	153	35.4%
	休み時間を短縮	133	30.8%
	日除けを設置	24	5.6%
4	(複数選択)	n	%
建	体育館を開放する	217	50.2%
建東の	体育館を開放する なるだけ校庭利用規制をしない	217 182	50.2% 42.1%
建康のた		100.00	
建康のため	なるだけ校庭利用規制をしない	182	42.1%
建康のための	なるだけ校庭利用規制をしない 不定期に子どもが遊べる行事を実施	182 95	42.1% 22.0%
健康のための対応	なるだけ校庭利用規制をしない 不定期に子どもが遊べる行事を実施 授業前に朝遊びの時間を設ける	182 95 63	42.1% 22.0% 14.6%
建康のための対応等	なるだけ校庭利用規制をしない 不定期に子どもが遊べる行事を実施 授業前に朝遊びの時間を設ける クラスに遊び道具を置く	182 95 63 43	42.1% 22.0% 14.6% 10.0%
4)建康のための対応策	なるだけ校庭利用規制をしない 不定期に子どもが遊べる行事を実施 授業前に朝遊びの時間を設ける クラスに遊び道具を置く 朝遊びができるように校庭開放	182 95 63 43 34	42.1% 22.0% 14.6% 10.0% 7.9%
健康のための対応策	なるだけ校庭利用規制をしない 不定期に子どもが遊べる行事を実施 授業前に朝遊びの時間を設ける クラスに遊び道具を置く 朝遊びができるように校庭開放 教室や体育館以外の教室を開放	95 63 43 34 22	42.1% 22.0% 14.6% 10.0% 7.9% 5.1%
健康のための対応策	なるだけ校庭利用規制をしない 不定期に子どもが遊べる行事を実施 授業前に朝遊びの時間を設ける クラスに遊び道具を置く 朝遊びができるように校庭開放 教室や体育館以外の教室を開放 屋外空間を改善する	182 95 63 43 34 22 25	42.1% 22.0% 14.6% 10.0% 7.9% 5.1% 5.8%

校庭利用ができず、授業に大きな影響が出ている たちの実感 休み時間に外に行けず、子どもの様子に変化が生じている

	カテゴリ	意見件数	. 1	既要	
			0%	50%	100
	校庭に大きなサン	47.0%		53.0%	
10年以内に、校庭や屋外空間の緑化を進めるべきだ			41.3%		58.7%
10年以	人内に、屋外空間を改善す	15.3%		84.8%	
0年以内に、教育活動を大きく見直すなどの対応策が必要だ			14.0%		86.0%
10年後、酷暑で、より校庭利用制限が必要になっている			5.3%	*	94.7%
Lives agin	01-511-1315 5 t 3 C 0 t)			CALABLACA

カテゴリ	意見件数	概要
1. 安全管理と基準	10件	WBGT基準の差や測定精度の問題、制限が子どもの成長に悪影響という懸念。
2. インフラ整備の要望と制約	22件	屋根・シェード・冷房体育館など設備改善の 要望が多数、費用や安全性の課題も。
3. 教育活動と学校運営のバランス	23件	運動制限による体力低下、プールや運動会 時期変更、外部委託や休暇延長の提案。
4. 緑化と環境改善の課題	12件	緑化の維持負担、芝生利用制限、外部委託 や国支援の必要性、木陰の利点。
5. 予算と行政対応への要望	28件	学校単独では限界、国・自治体の主導と予算 措置、教育活動の見直し要望。

▲図1:東京都全公立小学校を対象としたアンケート調査結果

⑥先生たちの